

第5回次期県立高校改革推進プラン策定懇談会について

令和4年2月25日

教 育 政 策 課

実 施 日 令和4年1月24日(月)

会 場 T K P ガーデンシティ千葉 3階シンフォニア

出席委員 13名/14名

内 容

1 報告

- ・第4回策定懇談会の概要

2 議 事

(1) 次期県立高校改革推進プラン【案】(説明)

(2) パブリックコメント結果報告

(3) 意見交換

3 議事録

座 長 まず初めに、報告について、議事録「第4回次期県立高校改革推進プラン策定懇談会について(案)」について、既に各委員に御確認いただいたものである。了解いただければ、公開したいと思うが、いかがか。

(「異議なし」の声あり)

座 長 第4回策定懇談会の議事録は承認していただいた。

議事に移る。まず初めに、資料の1「次期県立高校改革推進プラン【案】」について、事務局から説明をお願いします。

○資料説明

次期県立高校改革推進プラン【案】について

事務局説明

座 長 ただいま、「次期県立高校改革推進プラン【案】」について、事務局から説明があった。

続いて、パブリックコメントについて、事務局から説明をお願いします。

○資料説明

パブリックコメント結果報告について

事務局説明

座 長 ただいま資料１「次期県立高校改革推進プラン【案】」及び資料２「パブリックコメント 主な意見」について、事務局から説明があった。

この後の意見交換の進め方について、これまでのような項目ごとに区切ったの進行ではなく、委員一人一人からプラン【案】全体について、御意見を頂戴する進め方でいかがか。

（「異議なし」の声あり）

座 長 それでは、１人当たりおよそ３分、御意見をいただきたい。

委員 これまで４回の懇談会を経て、委員の方から挙げられた意見が反映されている。事務局の皆様、大変御苦労であった。

公立高校を代表するものとして、全体を通して１点だけお願いしたい。「次期県立高校改革推進プラン」が今後手続きを経て実施されるが、これらの案について、現場の高校任せにせず、教育委員会がしっかりとサポートして現場の高校と一体となり、進めて欲しい。今後、具現化された時に、それを前提としてお願いしたい。

委員 まず初めに、「次期県立高校改革推進プラン」について、短時間で皆様の意見を吸い上げ、まとめられたことについて、感謝申し上げる。

水産関係者として、今後、地球環境の中で非常に重要になってくる環境問題について、しっかりとしたコースがそれぞれの高校に設置されているという書きぶり、また、フォーカスした書き方に変えていただいていることに関して、非常に評価する。

また同様に、生徒募集において、小・中学生やその保護者に対してのＰＲが必要であることについても、しっかり書いていただいている。これも非常に重要なことだと思っており、この書き方で良い。

全体を通じて、一言言わせていただきたい。海洋科のある高校は、銚子、館山、そして、いすみ市と、同じ千葉県の中でも人口の減少の激しいところである。この先においても人口は減少していくことが予想され、とりわけ生徒の数が減っていく地域だと思う。そうした中で、せっかく良いカリキュラムをつくり、生徒を

募集しようとしても、生徒の数自体が急激に減ってしまうことにより、素晴らしいカリキュラムや高校が無駄になってしまうことが懸念される。とりわけ目的意識を持った生徒の入学が減ってしまうと、せっかくのカリキュラムが有効にならないことになってしまうか。

また、今回、パブリックコメントにもあるが、下宿や寮を用意し、全国から生徒を募集している県もある。千葉県の場合、600万の人口があるが、同じ千葉県内でも過疎地域と、まだまだ人口が多い地域がある。全県を対象にした募集をかけられるような高校、または海洋科に変えていくことが将来必要になると思う。これは、良い悪いではなく、どうしても避けられないことになる。館山にしても、銚子にしても、大原にしても、それぞれの歴史がある。自分たちの卒業した高校を、これから先も残していってもらいたいという、それぞれの地域の希望があるが、逆にこれから先、海洋科を残していくためには、どういう募集の方法があるのか、抜本的に考えていく、そういう時期ではないかと思う。

今回のプランでは、そのようなところまで踏み込むことはないが、これは行政の中で、しっかり検討していただきたい。

座 長 特に募集方法の検討という今後の検討課題をいただいた。

委 員 過去のものとも比較したが、良いと思ったのは、例えば1ページ。計画の基本的な考え方の中に「次世代へ光り輝く『教育立県ちば』プラン」の中から引用がある。プランをもう1回全部見たが、施策は11あった。例えば、主体的や道徳性、健康、共生社会、家庭教育、スポーツ等、いろいろな項目があった。でも、その中で施策5を選んだところが、とても良かった。一番共感できる部分である。「人間形成の場としての活力ある学校づくり」、この視点に立つと、いろいろなことが、おのずと変わってくる。

例えば、3ページの中央教育審議会、現状と課題のところの引用文言にしても、確かにそのとおり書いてある。ただ、それ以外にも、「日本の学校教育はこれまで学習機会と学力を保障するという役割のみならず、全人的な発達、成長を保障する役割も担ってきた」、その重要性は今後も変わることなく継承していく、という部分もきちんと書いてある。「光り輝く」の中の人間性の強調、そして中教審の答申の部分は、かなり関係していると思う。施策5を選んでいるのだからこそ、書いていただきたい。

前回の策定懇談会で、全体を通して、言葉の問題について、主張した。先ほど、事務局から「人材」についての説明があった。確かにそのとおりだが、「材」という言葉の意味の中でも「才能」はおそらく下位である。やはり「材料」が1番だと思う。また、一見良いように使われている「絆」という言葉も、元をたどっていくと、良いイメージの言葉ではない。言葉について、もう少し意識してほしいと思う。

「人材」という言葉について、国際人や社会人、人間などに言い換えられるところが、幾つもあると思う。今回、前回主張したことにより、「担い手」など、考えて変えていただいたが、さらに変えられるところがあるのではないかな。全体のプランを通して、人間形成というバックボーンを忘れないでいただきたい。あえて施策5を選んだのだから、ここで踏みとどまってほしい。

「はじめに」という部分が今回、初めて入った。これもよく読むと、例えば4段落の「この間」には、いろいろ書かれている。ただ、この10年間の間に起こった教育界の出来事として、35人学級の開始や働き方改革の観点は是非とも入れていただきたい。

座 長 特に、千葉県教育振興基本計画の内容に触れていただいたところが重要な点と感じた。

委 員 千葉県の私立学校の立場から、この会に出席をさせていただいている。前回の策定懇談会后、私立高校の総会に担当の方々にお越しいただき、私学側の理事長、校長の率直な思いをお聞きいただいた。そのことが、冒頭の「はじめに」のところにきちんと書かれており、県立高校の改革推進のプランだが、私立学校との連携、協力を推進しながらやっていくということがうたわれている。その他にも私立学校との協調という視点での記載があり、非常に大局的なプランが生まれたと思っている。

その上で、表紙に県立高校の学校があがっているが、これを見ても分かるように、千葉から北の方は小さくて読めない。公私の協調ということから、40ページには普通科の通学区域図があるが、ページも空いているし、裏表紙でも良いので、所在する私立高校も含めた県内にある高等学校、公教育を担う高等学校はこれだけあると示される方が良いのではないかな。

座 長 最後のページに、資料6として、私立高校の配置があった方が良いのではない

かという提案であった。これに対して、事務局の方で何あるか。

事務局 表紙 1 については、暫定的に作っている表紙である。これについては、さらに良いものをお願いしている。また、所在地については、御指摘があったように、参考資料の中に入れていきたい。

委員 小・中教職員の立場で参加させていただき、感謝申し上げます。また、この会で、教職員の情報の不十分さ、また、地域格差の問題について、伝えさせていただいたところ、連携の強化、戦略的な広報、そして、設置基準等、具体的な政策を入れていただいたことに感謝申し上げます。

各科のところに、それぞれに小・中学校等との連携が書かれているが、現実、どんどん進められていけたらと切に願う。

ただ、この会議に参加し、小・中でできることは何かを考え、5 回臨ませていただいた中で、小・中の子供たちに将来の人生、社会人になることにもっと希望を持たせたいと思った。また、それにより、進学することに期待が膨らみ、社会人に近づくにつれての喜び、そのようなものを小・中で与えられることができたらと感じている。今の学校生活の充実につながると、この会議を通して再確認した。

そのためにも、小・中・高において、横断的な学びの幅や体験的な機会を仕組む必要がある。そのためには教職員が考える時間、打合せをする時間、そして、子供たち自身の体験的な時間を保障することが必要であると改めて思った。小・中・高の人員が、また配置が必要であり、連携を取るための時間の保障をこれからどうつくるか、このプランを進めるために、併用して考えていく、また相談しながら、私たち現場の声を伝えていけたらと思う。

委員 第 1 回から第 4 回まで、参加をさせていただき、また、事前には丁寧に説明等もいただき、感謝申し上げます。

今まさに中学校では、県内の私立高校の入試が一段落し、この後、2 月の公立高等学校の入試等に向け、子供たちは取り組んでいるところである。コロナの感染状況が拡大している中、学校に来ている生徒たちも非常に不安な中で、この後、どうやって学校で学んでいこうかと考えながらやっているところである。

県立高校の改革推進プランについて、とても大きい問題であると、改めて感じている。また、私たち教師についても、プランの中で県立高等学校卒業後の進路

状況が非常に詳細に出ているが、高等学校の問題だけでなく、私たちの方が中学校を卒業させて、子供たちを高等学校に送り出す時に、どのようなことを理解していて、どのような思いを持って進路指導していくことが大切か、考えさせられている。大変貴重な資料の方を拝見させていただいた。

生徒や保護者にとっては、とても大きな問題である。改革推進プランが広く保護者や、あるいは、教職員の方に周知できるように、引き続き、完成した暁には広報していただきたい。

また、パブリックコメントについて、それぞれの地域の中で参加された方が、その地域の実情に応じた思いを持って意見を述べられていると感じながら、拝見した。千葉県は広いが、地域毎に課題は別々である。それぞれの思いを大切にしながら推進していただきたい。

委員 非常に貴重な経験をさせていただいたことに、感謝申し上げる。

9ページの(7)で、学校と他機関を円滑につなぐコーディネーターについて取り上げていただき、感謝申し上げます。また、農業科の中にはインターンシップに関する要望も入れ込んでいただいた。これについても感謝申し上げます。

ただ、農業科に限らず、自らの実体験に基づいて、地域なり地域の産業を見る目、こういうものを養っていく必要がある。改革を推進していく中で、こういう視点で改めて進めていただきたい。

もう1点。特に過疎地域の中で、生徒の人数が少なくなってしまうことは避けられない状況なのかもしれないが、伝統ある農業系の高校がなくなってしまうのは、OBにとっても非常に寂しい。単なる統合にならないよう、慎重に御検討いただきたい。

委員 まず、非常に限られた時間の中で、このように丁寧な形で案を取りまとめられた事務局の皆様は、敬意と感謝を表したい。

私は産業界の人間という形で、この場に出させていただいている。工業科の設置について、意見を述べさせていただいた。案には、建設業、製造業における求人数や就職者数が、数字を定量的に出していただいたことは、大変意味のあることだと思う。

一方で、1,200名ほどいる工業系の卒業生の中で、65%が工業系の進路を選択していることも、ここをつまびらかになっている。私たちの立場からすると、

もう少しここが上がってくると良いところだが、数字を具体的に引き上げることは、確かに生徒の進路を縛ることに繋がり、本末転倒なことが起きるので、ここはこのような書き方にとどまったところは理解できる。

また、工業系高校人材育成コンソーシアム千葉の取組や、小・中学校との相互交流等で関心を高めることについて、県立高校の枠だけではなく、社会に広くPRをしていく提案がなされている。物づくりに対する興味を、全体的に上げていけると思う。私たちも理解のできる場所である。産業界の人間として、どういった協力ができるのか、あるいは、社会に関心を持ってもらえる働きかけができるのか、一緒に考えていきたい。これは私たち自身にも突きつけられた課題として認識している。引き続き、連携していきたい。

座 長 産業界からも、今後も一緒になって、高校教育をよくすることに努力したいというお話であった。

委 員 まず、この短期間でボリュームのある改革プランを策定していただき、事務局に深く感謝を申し上げたい。

私は福祉分野で参加させていただいた。現プランが策定された頃は、福祉教養科ができ、まだ数校の福祉コースが設置された段階であった。今では、全学区に福祉コースも設置され、様々な形で福祉の学びをしている高校生がいるという状況になっている。

次のステップとして、福祉拠点校、福祉コースの学校同士が連携するコンソーシアムを構築し、ますます連携を図りながら展開をされることを期待している。

また、小・中学校との相互交流について、小・中学校の体験が高校での学び、また、上位校での学びにつながっていくとも聞いている。是非とも、相互交流についても、今後、高校で展開されることを期待している。

パブリックコメントの中に、保育コースについて、普通科のところでは若干触れられているが、残念ながら福祉科のことについては、特に主な意見としてはなかったようである。これが福祉、介護、保育分野の現実である。人材を確保、定着し、千葉県民が安心して暮らせる地域になっていくような取組が今後も求められていくと思う。是非とも、このプランで書かれたことが実践され、さらに10年後、より発展できるように期待をしている。厳しい状況を、はっきりとプランの中で書かれているので、現実を踏まえ、今後、取り組んでいただきたい。

もう1点。これはお願いになる。プランが策定され、教育委員会、さらには高校の現場の先生方にも伝わっていくと思うが、どうしても人事異動などがある。このプランを策定した思いを次の方に必ず伝えていただき、このプランを基に展開できるように、働きかけを是非ともお願いしたい。また、このプランを実現させるためには、どうしても費用がかかるものもある。今回、コンソーシアム構築を福祉科に入れたが、当然、財政的な裏づけも必要になってくる。この点についても、財源を確保されるよう御尽力いただき、展開していただければと思う。

座 長 今後、県民の生活にとって、ますます重要になる福祉、そして福祉科について発言をいただいた。これは福祉科に限らないが、今後、財政的なところについて、しっかり事務局の方で押さえていくことが重要だという話をいただいた。

委 員 事務局におかれては、大変御苦労であった。すばらしい改革推進プランが出来上がったと思っている。

ただ、ここがゴールではなく、これからが実際のスタートである。適正規模、適正配置については、パブリックコメントでもいろいろと意見が出ている。これまで、通える範囲の学校の維持や、地域協議会などで統合の検討手順を説明していただくこと。また、1市町で1校の場合の特例校としての存続の配慮のお願いなどを申し上げてきた。基本コンセプトに、「予測困難な時代」と記載されているが、プランの実施に当たり、今後、10年間の環境変化にも柔軟に対応して進めていただきたい。

委 員 まず、資料をまとめてくださったことに、感謝申し上げます。

保護者の立場からお話をさせていただくと、全体的にすごくまとまったプランの作成ができたと思っている。細かいところに関しては、今後もいろいろな御意見があると思うが、基本的な考え方の部分にもあるように、実際に運用していく中で、適宜、御意見などを頂戴しながら見直しをするなど、柔軟な対応を今後お願いしたい。

学校や地域、企業なども、連携していただき、それぞれの学校が特色のある学校、魅力ある学校づくりを是非これからも進めてもらいたい。

また、ちょうど私立の高校受験が終わり、これから公立というときに、コロナの状況もあるが、子供たちも含め、親も先生もすごくシビアな時期になっている。

そのような中で、子供たちにとっては初めて今後の人生を左右するような決断になるのではないかと思うので、このプランが持つ意味はすごく大きいと思う。

その中で、今後、少子化に伴い、都市部と郡部の差が顕著になっていくことが見えてくる中で、先ほど委員からお話があったが、是非私も、地図には私立の学校も入れていただきたい。というのは、私はどちらかというと郡部に住んでいるが、都市部に住んでいる子供と郡部に住んでいる子供では、高校の選択の幅について、どうしても差が出てきてしまうと感じている。通える範囲であったり、例えば全寮制など、子供たちが同じ条件で、自分のこれからの人生を左右するような選択に当たり、同じ条件で選択ができるように、今後も御配慮いただきたい。パブリックコメントでも、適正配置について、いろいろ御意見が多いという印象を受けた。統合について触れているパブリックコメントがあったし、郡部にお住まいの方にとっては、すごく今後を左右するような大きな出来事だと思う。いろいろな御意見をいただきながら、このプランをさらにマイナーチェンジし、より良いものにしていただきながら、公立高校も私立高校も含め、これからの千葉県の子供たちにとって、本当に良い学校ができるよう、保護者として願っている。

事務局

本日御欠席の委員の方から御意見を頂戴している。紹介させていただく。

委員

千葉県商工会議所連合会を代表し、企業と教育機関が連携した取組に対する支援について、昨年１２月１６日に行われた、ビジネスコンテストによる実践例を紹介させていただく。

正解がない問題に対して、解を出す学びを通して、望ましい職業観や実社会に必要な資質の醸成を目的とする千葉県内の大学生・大学院生限定のビジネスコンテストである千葉限定キャリアインターカレッジ２０２１決勝大会がペリエ千葉にて実施された。このビジネスコンテストは、大手広告代理店が主催し、当連合会も連携して学生の支援に当たっているものである。

課題提供企業として、本県にゆかりの岡本硝子、飯沼本家、リーガルコーポレーションの３社がそれぞれ課題テーマを設定し、その解決策を学生が提案した。本年の課題テーマは、「ガラスの持つ無限の可能性を生かし、環境にやさしいガラスを使った製品の考案」、「２０代に向けて日本酒文化を広め、酒蔵と周辺の自然環境を活用した誘客方法の提案」、「つくる責任、つかう責任、モノづくりの会社としてできる、次世代に向けた持続可能な取組の考案」といったものであった。

私はこのコンテストに審査員長として参加したが、審査ポイントである「テーマ分析」、「課題洞察力」、「実現可能性」、「持続可能性」、「社会革新性」、「本領発揮」、「アイデア」において、いずれの発表も評価が高く、「持続可能な社会づくり」や「Society 5.0に対応した新時代」に求められる探究する力を身に付けていると感じた。

企業と教育機関が連携した取組は、次期県立高校改革推進プラン（案）の「計画の基本的な考え方」や「魅力ある県立高校づくりの推進」で示されている指針と合致するものであると考えている。これまでも当連合会は、本県高等学校における産業教育の振興に微力ながら寄与してまいったが、本日、紹介したビジネスコンテストへの高校生の参加実現に向けた支援も踏まえ、今後も、より一層、支援の充実に努めてまいりたい。

副座長 このような改革推進プランがまとまり、大変ありがたく思う。しかも、半年という短期にわたり、委員の建設的な意見の下、このように案がまとまったこと、改めて委員の1人としても大変うれしく思う。感謝申し上げる。

これまでの改革推進プランは、人口が減少にシフトチェンジした中でのプランであった。これからの10年はさらに、6,200名以上の中学校卒業生数が減るという中での非常に厳しい再編計画ではないかと思う。その中で、今後の高等学校教育の在り方を広範に議論できたのではないかと思う。

2点、申し上げたい。1点目は、これから実施プログラム策定に当たって、これは教育関係者のみならず、当然関係市町村との問題が大きく関わってくる。特に人口の話を教育だけで語ることは到底できないことであるので、是非、関係市町村等と連携を十分取りながら、議論を深めていただきたい。

2点目は、第2回会議で簡単なポンチ絵のようなものを出させていただいた。再編計画というハード面、器をつくったとしても、それを動かすソフト面があってこそ、再編プログラムは生きてくるものと私は考えている。車の両輪だと考えているので、是非ハード面とともに、その運用面についても合わせて、県教育委員会の手腕の下に実行していただきたい。

10年後の姿を思い浮かべながら、応援していきたい。

座長 最後に、意見を述べさせていただく。副座長からあったように、6か月という短い期間で、しかも会議スケジュールがタイトな中、熱心に御議論いただき、よ

くどこまでまとまったと思っている。今回の推進プラン案を振り返ってみると、幾つか大きな特徴があるように感じている。

一つは、今回の推進プランは、先ほど委員より話があったように、千葉県教育振興基本計画の施策5、「人間形成の場としての活力ある学校づくり」と非常に密接であり、それをいかに実現するかという形で進んでいることを改めて感じた。これまでの改革推進は、どちらかというハード面、制度や、新しい仕組みの高校をつくるとか、あるいは、再編整備というところはある。それをさらに踏み込んで、学校運営に踏み込んでいるところが重要かと思う。それも活力ある学校をつくるという大きな目標があるからである。「戦略的な広報活動」と言っているが、これを一つのやり方、手段として、高校の活性化を図るところが重要なポイントではないかと振り返って考えている。

第2点は、委員の発言を通してみると、「連携」が大きなキーワードになっていたと、改めて感じた。一つは、小学校、中学校、高校、それから大学と、いわゆる縦の連携のことが触れられた。さらには、高校同士の連携という話もあった。それから、高校と産業界の話も重要なテーマであった。さらには、学校と地域の連携、これも教育内容にも関わるが、さらには自治体との関係。高校と自治体との関係が、今後ますます重視される必要があることを改めて感じた。このような多方面への連携、協力をどのように進めるのか、今後、第1次、第2次という形で実施プログラムが出来上がっていくが、具体的にどのような内容を盛り込むかが重要な課題となってくるのではないかと考えている。

全国的に平成元年のピークからどんどん生徒数が減っているが、千葉県は大都市圏にあることから、どちらかという、緩やかだった。しかし、全国にはもっと急激に人口減少、生徒減少が進んでいるところもあり、様々な再編整備を行っている。高校の再編もそうだが、一方で、「学校を残す」ことを選択しているところも少なからずある。その場合、自治体とのタイアップがかなり重要になってくる。今後、再編整備の具体について検討いただくが、自治体との連携・協力、また、地域との連携・協力をさらに進めていただくよう、強くお願いしたい。

これまで高校改革推進をずっと続けてきたが、さらに高校をよりよくするんだと、持続可能な形での方向性が示し得たのではないかと。その一方で、全国的、各都道府県、財政的に厳しく、なかなか思い切った財政投入ができないが、それで

も県民の将来を、千葉県の将来を担う高校生のために、なるべく多くの財政投入できれば、座長としても大変ありがたい。

これで一通り御意見をいただいたので、出た意見を参考に、事務局については、最終案の策定をお願いしたい。

それでは、今回で最後の策定懇談会となるが、全体を通して何か最後に発言したいという希望があれば、お願いしたい。

委員 プランの構成について、用語解説が空いたところに入れているという感じである。「Society 5.0」は、9ページにも出てくるが、用語解説が載っているのは21ページである。「STEAM教育」も9ページにあるが、解説は27ページ。「IoT」は、「はじめに」のところに書いてあるが、24ページに載っている。文科省や中教審だと、最後に用語解説として、A B C順に載せているのが多い。

空いたところ、それも後出しで載っているのは、読み手に対して、少し不親切だと思う。「GIGAスクール」も載っていない。分からない人もいると思う。アルファベットの言葉だけではなく、最後の方にまとめた方が、理解の手助けになると思う。

それから、もう一つ。これはプランだから、P D C AのPである。この後、D o、Cはc h e c kである。10年間、後は県教委にお任せするというのではなく、3年や5年たった時に、場をつくり、そこでチェックする。そして後半戦に臨むことをした方が良いと思う。

座長 重要な提案をいただいた。確かに文科省の報告書などでは、注釈をそれぞれのページの下に書いて、すぐ参照できるようにしているところもある。さらには、委員の指摘のように、後ろにまとめているものもある。今回は、恐らく各章、節、項のまとまりを重視してのことになっていると思うが、今後、最終版ができる時には、その辺りを工夫してレイアウトの方をお願いしたい。

それから、P D C Aサイクルについて、県教委のチェックだけではなく、外部の委員のチェックも必要ではないかという貴重な提案をいただいた。その可否についても御検討いただきたい。

委員 パブリックコメントでも御意見が多かった、関心の高い「県立高校適正規模、適正配置」について、34ページのことを中心に話したい。

まず、本文２行目にある、適正規模の最適化という言葉は、いささか変かなと思う。適正規模の最適化、何かの最適化ならば分かるが、適正規模というのは、そもそも適正な規模はどうかということである。都市部、郡部での原則が示されている。前回プランから１０年がたっている。生徒数の減少、人口減はさらに進んでおり、同じような上限である必要はないと思う。都市部は８としても、郡部は８ではなく６もしくは７という場合もあるのではないかな。

そもそも、この議論の始まりは少子化や人口減少という状況である。しかし、これは千葉県に限られたことではなく全国的な現象である。その解消に本県が真っ向から挑むということなら別だが、このプランでは、そうした状況を問題にするのではなく、これから１０年、もっと言うならば、さらにその先も続く人口減少社会という現実を踏まえて検討するべきだと思う。高校の仕組みができたのは戦後少したってからだが、その頃から産業構造や社会構造は大きく変わった。対応できない部分がいろいろあるだろうとも思う。これまでやりたくてもやれなかったことを、私はそのうちの一つは、ようやく機が熟してきたかのように映る、少人数学級だと思っている。

先進的な関東の都県の取組を早急に検討していただければと思う。財政的な要請があるかのようにも思えてしまう「１０組程度」という数字の部分も、こういった数字で書くのではなく、まず、整備、改修等の費用もかさむであろう、職業系の専門高校から始めるとか、郡部から始めるとか。「適正配置」を追求していくと、通える範囲の学校が少ない、つまり中学卒業者の教育を受ける権利の差がどんどん大きくなってしまおうような気がする。もしかしたら１０年後には、今は３クラスの学校もあるが、２クラスでも残さなくてはならないという学校も出てくるかもしれない。

私たちの学校では管理職が中心となり、スクールバスの運行について、校内で詳細な調査を行ったことがある。残念ながら、運行経費や料金、本数、方面の問題などで暗礁に乗り上げているが、実は利根川を隔てた茨城の取組が少し面白いと思ったので紹介する。茨城県は、公立高校のスクールバスが結構走っている。それもユニークだと感じられるのは、１校、その学校のスクールバスというのではなく、例えばＡ高校、Ｂ高校、Ｃ高校共通のスクールバスという仕組み。これは地理的な問題もあって、千葉県にぼんと持ってくることはできないかもしれない

いが、やっている学校やバス連絡協議会といったものでやっている例がある。スクールバスについても、検討を始めていいのではないか。

これまで私がいろいろ申し上げてきたことや、「コンセプト」、「方向性」を全県立高校で実現するためには、当然ながら、多くの支出を伴う。「連携」という言葉に象徴されるように、本当に多くの支出が必要だと思う。前回は1年以上かけ、二十数人で練ったプランであったが、今回、この短時間で本当に大変だったと拝察する。教育庁全庁を挙げて、このプランをプログラム化し、それを実現していくのは困難とも思う。国に要望もしながら知事部局も巻き込み、国の予算を、あるいは補助金等もしっかりと使ってほしい。

まだ3月の定例の委員会があるが、御苦勞様でした。この先のプログラムを注視していきたい。

座 長 私も練り上げてきた推進プランを確実に、着実に実行していただき、成果を上げることを祈っている。

座 長 それでは、時間となったので、意見交換を終了させていただく。本日をもって、策定懇談会は終了となる。策定懇談会における、これまでの協議を県教育委員会をはじめ、関係者の皆さんが真摯に受け止め、「次期県立高校改革推進プラン」を作成し、今後の千葉県の魅力ある高校づくりに取り組んでいただくことを、私たち委員一同の願いとしてお伝えしたい。

今回が最後となるので、私と副座長から一言申し上げたい。

副座長 半年という短期間に5回にわたる会議において、このような建設的な御意見を頂戴し、感謝申し上げます。特にプラン案にある具体計画の方向を見て、我々はどうな方向になるのか、非常に期待を込めている。是非、県教育委員会の方では、さらにこれを具体化していただければ、将来の千葉県の高校教育の様子が想像できるかと思う。

座 長 この6か月という短い間であったが、熱心に協議いただき、重ねて厚く御礼を申し上げます。また、事務局におかれては、大変な作業を進めていただき、このような形で、案として提出できることをうれしく思っている。

それでは、教育委員会を代表して、教育長から一言お願いする。

教育長 皆様からもあったが、昨年7月の第1回の会議から半年間に5回という懇談会に、お忙しい中、毎回御出席いただき、また、それぞれのお立場から貴重な御意

見を賜り、厚く御礼申し上げます。

私は御案内のとおり、昨年の４月にこの職に就き、皆様方のように教育に長く携わっていたわけではないが、私なりに今回のプランの策定を通じて、感じたこと、考えたことがある。県立高校の役割、存在意義について、深くこの作業を通じて考えた。大きな役割は、将来の千葉県を支える、地域産業を支える人材を育てていくことが県立高校の大きな役割であるということを強く感じた。そのために、こちらのプランにも記載したが、職業科や職業コースでの学びの充実について、これまでも様々な取組、改良を重ねてきた。これから生まれてくる新しい産業や技術革新を踏まえて、本県の重要な産業である農林水産業、そして、臨海の工業地域をはじめとして、これまで千葉県の発展を支えてきた工業界の皆様との連携を一層深め、また、既存産業の高度化を支える人材という視点も加えながら、様々な職業科や職業コースの学びの充実を図っていく必要があると感じた。

そのためには我々自身、教育委員会が、今後の産業構造の変化や、産業界に求められる人材はどんなニーズがあるのか、十分に踏まえて、教育カリキュラム等をつくっていく必要がある。そのためには、このような形で、それぞれの産業界の皆様との連携を深めていく必要がある、いろいろな場面で意見交換を重ねていく必要があるということを強く感じた。今後も各産業界の皆様、是非お力添え、御意見を賜りながら進めてまいりたい。

もう一つは、県内の経済界の方々と話す機会の中で、職業教育や、あるいはキャリア教育と言われるものがあるが、テクニカルな部分の教育や学力の部分だけではなく、社会人として、きちんと社会の担い手になっていける人間を育てていく。それには、例えば基本的な生活習慣やコミュニケーション力の形成などを、高校教育の中できちんと教えていく、身につけさせていくこと、それがないと、いかに技術、あるいは知識があっても、企業の皆様や産業の社会の中で重要な役割を担っていけないのではないかと感じた。人間としての基本的な生きる力のような部分を育成していくには、家庭や地域とのつながりが非常に重要であると思う。学校教育だけでは支え切れない部分があるので、引き続き、家庭や地域の皆様とのつながりを大事にしながら、安心して社会に送り出せる子供たちを育ててまいりたい。

また、小・中学校との接続、つながりが非常に重要であるし、もう少しやりよ

うがあるのではないかと感じた。系統的なキャリア教育や個別最適な学びの実現など、高校に入ってから急に養えるものではない力が多々ある。それには、今まで以上に小・中学校と高等学校との様々なコミュニケーション、交流など、相互の理解を深めるような機会をつくっていかねばならないと感じた。

同様に、地域の中に学校があるので、私立学校を含め、地域の教育資源との連携、あるいは地域の人材の活用など、学校が学校として成り立つためには周囲の方々のお力や交流がないといけない。学校は、孤立してぼんと存在しているというものではないので、皆様の御意見を聞く中で非常に強く感じた。県立学校だけではなく、私立の優れた学校がたくさん県内にあるので、つながりを持ちながら、県立だけで生きていこうと思わないで、つながりの中で、お互いにすばらしい人材をつくっていくことを目指していく必要があると感じた。

いずれにしても、ここに書いたものを実現させていくためには、先生方一人一人が子供たちの生きる力を育むような、目を向けられるような時間をつくってあげなければならないので、教員の働き方改革が大きく関係すると思うし、また、教員の方御自身、先生方一人一人の哲学というか、資質の向上という部分も重要であると思う。

多方面での教育委員会、あるいは県全体の施策の中での具体的な取組がなければ、このプランの実現は難しく、また、皆様の一層のお力添えがなければ、教育委員会だけでやっていけるものでもない。今後、これに基づき、数次のプログラムをつくり、その中で具体的な施策、あるいは高校の再編等も取り組んでまいりたいと思うが、子供たちにとって満足度の高い、安心して学んでいけるような高校を引き続きつくってまいりたい。皆様の一層の御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。本当に貴重な御意見を長い間、感謝申し上げます。

座 長 以上で議事を終わらせていただく。進行を事務局にお返しする。

— 了 —